

指標名: 公共投資の動向(2013年4月)

発表日2013年5月17日(金)

～公共工事請負金額が大幅増加～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 高橋 大輝  
TEL : 03-5221-4524

## ○公共工事請負金額は緊急経済対策の効果が顕在化し始める

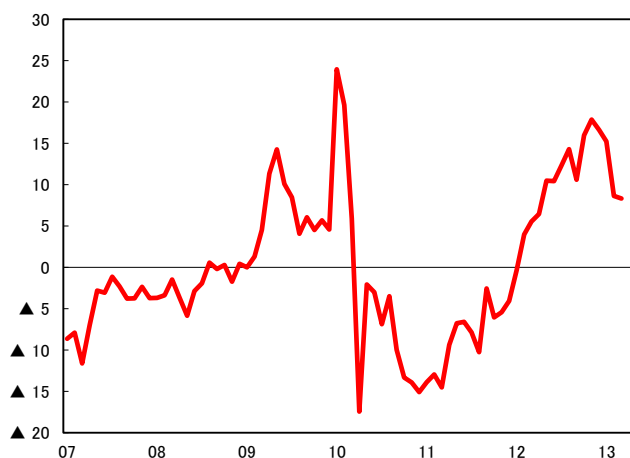
公共事業の発注段階の動向を示す統計である公共工事前払金保証統計（5月15日公表）によると、4月の公共工事請負金額は前年比+28.6%（3月：同▲11.7%）となった。3月は震災後の復興需要の剥落が下押し要因となり前年比マイナスとなったが、4月は大幅増加に転じている。今年2月に成立した緊急経済対策の効果が顕在化し始めたようだ。内閣府が公表している「平成24年度補正予算関連事業の進捗状況のまとめ」によると、3月13日時点では実施済（独立行政法人等が民間企業と契約を済ませたもの）が調査対象全体のうち15.3%にとどまっていたものの、4月15日時点では61.3%と大きく進捗している。こうした動きから4月の公共工事請負金額が大きく伸びたと考えられる。今後も補正予算関連事業が着実に進捗すれば、公共投資の押し上げが期待できる。また、5月15日に成立した平成25年度予算では公共事業関係費が5.3兆円程度と前年度より0.7兆円多く計上されており、こちらも今後の進捗に期待がかかる。

## ○公共工事出来高は復興需要の効果が徐々に剥落

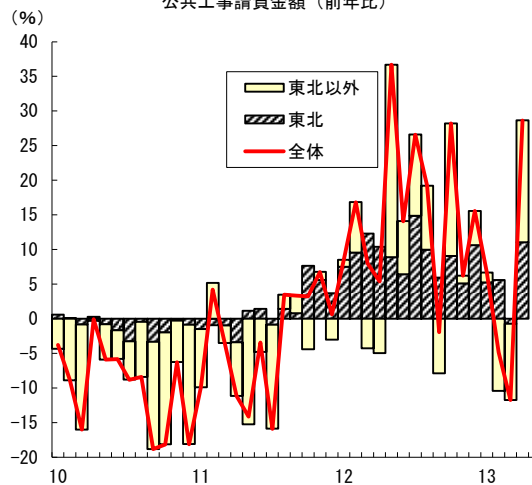
本日、国土交通省から発表された建設総合統計では、3月の公共工事出来高が前年比+8.3%となり、4ヶ月連続で伸びが鈍化した（11月：同+17.9%、12月：同+16.6%、1月：同+15.2%、2月：同+8.6%）。公共工事出来高は工事の進捗段階の動向を表す統計であり、GDP統計における公的固定資本形成の基礎統計にもなっている。

3月の出来高は復興需要の押し上げ効果が剥落してきたとみられ、伸びの鈍化が続いた。また、3月時点では緊急経済対策の効果が顕在化していなかったことが確認できる。先行きは、出来高に先行する公共工事請負金額が明確に増加していることから出来高でも増加が見込まれる。13年4-6月期のGDPベース公共投資は、緊急経済対策の効果が出来高でも顕在化してくることによって前期比増加となることを予想している。

公共工事出来高(前年比、%)



公共工事請負金額 (前年比)



(出所) 国土交通省、北海道建設業信用保証株式会社、東日本建設業保証株式会社、西日本建設業保証株式会社